

成果報告書

I. 研究概要

氏名	中島 和子
所属	トロント大学東アジア研究科 (名誉教授)
招聘回(招聘期間)	第7回 (2012年10月1日-2013年9月30日)
招聘研究テーマ	継承語文献データベース Heritage Language DataBase (HLDB)の開発
研究目的	現代日本が抱える外国人児童生徒教育、海外帰国児童生徒教育、国際結婚家庭児童への継承語・継承文化教育に寄与することを目的として、マイノリティー言語教育に関する文献を継承語データベース (HLDB, Version 1) としてまとめ、母語・継承語・バイリンガル教育研究会 (MHB) のホームページ上で公開すること。

研究概要:

親の母語・母文化である日本語を次世代に継承する「継承語としての日本語教育」は、日本語が少数言語である異言語環境で育つ日本人、日系人子女の日本語の習得・後退・喪失にまつわる社会的・心理的・社会心理的・教育的・言語的問題を扱う領域である。継承日本語教育は、南米移民が始まって以来、100年以上の歴史を持つ日本語教育の一領域であるが、専門家不在、経営的に零細な営みであったため、文献が少ない上に未整理のまま放置されており、現在入手困難な状況にある。

また世界的視野に立って継承語教育の状況を概観すると、国によってその対応が異なる。北米の例を挙げると、もっとも先進的な取り組みは、移民が持ち込んだ言語・文化を「国益につながる言語資源」という概念で1970年代に始まったカナダの継承語プログラムである。移住者の自らの文化と言語を保持・伸張する権利を「カナダ憲法」(1982)と「多文化主義法-カナダにおける多文化主義の維持と高揚のための法律-」(1998)で守っている。2000年になると、9.11の同時多発テロ事件をきっかけに、米国で即戦力のある継承語話者の言語能力が注目されるようになり、現在継承語研究の隆盛期を迎えている。カナダは言語形成期の年少者(2-14歳)の言語発達と人格形成(例:アイデンティティなど)が中心課題であるのに対して、米国では言語面に焦点を当てた中高生・成人対象の継承語研究が中心である。紀要 Heritage Language Journal が2003年に発刊され、ワシントンの応用言語学会 (Center for Applied Linguistics) では、全米の継承語プログラムに関する Heritage Language Programs Database が構築され、公開されている。上例のように国によって継承語への取り組みは異なるが、全体を概観すると、マイノリティー児童生徒を対象とするため、政治的・経済的状況によって浮き沈みの激しい領域と言える。

継承語データベース (HLDB) 開発プロジェクトの経緯を振り返ってその概要を簡単に述べると、まず本プロジェクトは、2009-2012年の学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B) 課題番号21320096 研究代表者 中島和子)の援助を得て始まったものである。その背景には、母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会が深く関わっており、MHBを抜きにして本プロジェクトを語ることはできない。MHBは、2003年に101名で発足、今年7月現在会員数666名、その会員の40%近くが海外にルートを持つユニークな研究会である。本プロジェクトは、MHBの会長を研究代表者、事務局長を共同研究者、理事全員を研究協力者、国内/海外会員72名(24カ国)が「継承語文献調査協力者」として開発し、MHBのホームページ上にHLDBを公開、その管理をMHBのHLDB-SIGが行う計画で発足したものである。実際のデータベースの構築は、神戸大学大学院の人文科学のデータベース関係の専門家である森下淳也教授と田中順子准教授に依頼し、連携研究者としてコンテンツを擁する枠組、内部構造、インターフェースの構築を担当している。

このような共同作業として始まった本プロジェクトは、2009年より同じ基本方針に従って文献の収集

を各地で始めた。そして2013年の8月には、文献数が2325件（24カ国、8言語）、キーワードが2474語（和語・英語対訳）という状況であり、その文献の種別は、著書・論文1671件、口頭発表105件、教材やソフト175件、雑誌・新聞69件、政府刊行物201件である。

博報財団のプロジェクトが始まった2012年10月の時点では、上記文献データは暫定的な「編集管理システム」に収納されていたが、プロジェクト終了時点である2013年9月には、つぎのようにインターネット上でアクセス可能な、Heritage Language DataBase (HLDB)の試行版が公開される段階に達した。公開時のURLとその一部を例として示すと、以下のようである。

試行版 HLDB (試行版) の preview: <http://yay.cla.kobe-u.ac.jp/~jm/hldb/>

継承語文献データベース Heritage Language DataBase (HLDB)

継承語文献データベース

継承語・継承文化教育は言語形成期における青少年の言語発達、人間形成に必要であり、親子のコミュニケーションや帰属意識な教育的営みや教育専門家の不在などから、文献の入手先が不明である、またはばらばらで整理されていないのが現状です。そこで(HLDB)を作成しました。

文献検索システム

以下の項目に欲しい文献に含まれている語句を入力、選択して下さい。入力された語句は原則、部分一致で検索されます。複数の語句を指定できる項目には、「次」ボタンと「リセット」ボタンが用意されています。「次」ボタンを押すと、新しい入力フィールドが消去され、最初の1項目からの入力に戻ります。また、これらの項目ではデータベースに登録されている語句を選択できます中から選択できます。

展望:

今後の展望としては、2014年3月末を目処に試行版の不具合の調整中である。例えば、国別・地域別・言語領域別インデックスの作成や著者・編者名の複数の名前で、これまでもれていたものの追補などである。

Heritage Language DataBase (HLDB)のVersion 1の公開は2014年度3月(MHB十周年記念行事および十周年記念紀要の発刊)に予定している。その後、HLDBサーバーは神戸大学森下教室で管理、MHB理事会でHLDB SIGを発足し、HLDB委員会を設置、HLDB委員会主導のもと、保留文献(約300)を追加、入力マニュアルの執筆、そしてVersion 2に向けての文献増補の方針を立てる予定である。